

## マーラーの歌曲集『さすらう若人の歌』(3) —歌手とピアニストの為の演奏と解釈—

野々垣 文 成

### 1 はじめに

歌手とピアニストは演奏自体で評価されるのが通常である。演奏する内容を文字化することは稀である。しかし演奏家たちの参考の一端となればとの思いであえて執筆している。今回は前回の続きでマーラーの歌曲集「さすらう若人の歌」第3曲について歌手とピアニストの為の演奏と解釈について論じたい。

### 第3曲『私は燃えるような短剣をもって』

#### Ich hab ein glühend Messer

前曲第2曲ののどやかな音楽内容、手法、表現方法とは打って変わった感情表出のされている曲である。恋人への想いを断ち切れない若者の苦しみが一気に吹き出されている。第2曲の最後の部分第103小節目(譜例1)からかなり内向的になり最後は自信と若者の生気を削がれたように歌い終わっているのだが、この後、突然の若者の心の激流のほとばしりが表出されている。この曲集の感情的な、又テクニク的な頂点を築き曲集全体のめりはりを出している。しかしこの第3曲は歌手にとってもピアニストにとってもかなりのテクニク的に難曲である。曲は通作形式にて書かれており、楽曲自体同じモチーフを全く使っていないと言ってもよい。8分の9拍子(後半は4分の4拍子)で書かれている。速度表示はSchnell und wild (mit starkem Pedalgebrauch) “速くそして荒々しく(ペダルを強く使用して)”とある。♩=112位であろう。かなりの速さである。声種によって同じ曲であっても演奏速度の違いが生じる事を何度も述べてきたがこの曲については例外的なところがある。どの声種もかなり速く演奏しなければならない。歌詞の内容は以下の様である。第1節「僕は燃えるような短剣を持っていた。僕の心にその短剣を持っていた。その短剣は奥深く刺さっていた。この痛さ。すべての喜び、すべての楽しみの時にもそれは深く痛みを伴って刺さっ

ている。なんと凶暴な客であろうか!かた時も休まず、かた時も憩えず。昼も夜も、僕が眠るときにさえこの痛み。」

ではまず前奏から見てみよう。最初はff(大変強く)で始まるが第3小節目に入るとディクレッシェンドが掛かり音量はpp(大変弱く)まで落ちている。通常のパターンであればクレッシェンドを掛けより緊迫感を与えるのであろうがこのようにしている意味はこのような劇的な内容であってもあくまで内的な感情表現が曲全体を不安定に支配していることのあかしをこの前奏部分で暗示しているのである。ピアニストは無意味なディクレッシェンドを掛けてはいけない。あくまで緊張感と音楽の張力をもって演奏すべきである。この4小節の前奏(譜例2の第1~4小節目まで)は最初の2小節は8分の6拍子(3拍子系)であるが第3, 4小節では8分の6拍子(2拍子系)に移っている。この拍子の変化が聴衆の心を捉えることは明白である。第3, 4小節2拍子になった事で若者の心の劇的な高揚がディクレッシェンドとは裏腹に痛いほどに迫っている。しかし歌声部は最初からf(強く)歌い出している。歌はいきなりDis(#レ)からG(ソ)まで一気に駆け上がっている。減11度である。楽器の演奏ではないのでかなりのハイテクニクを要する。一般的には低音部を明るく軽く歌い高音部の為に引き上げのゆとりを持ちながら歌うのであるが、この部分は一気に感情をぶつけなければならないのでこの限りではない。低音部から高音部までの胸声から頭声に至るまでの発声テクニクが不可欠である。ピアノパートに第5小節目の最初の8分音符があるために歌手の歌い出しの緊迫感を更に増長している。歌手はこの8分音符の為に不安感を一層募らせて緊迫度を増すのである。左手のピアノパートがメロディーラインをなぞっているのもさらに緊迫感を増長させている。歌唱部分の始まりから第32小節までの右手の8分音譜の刻みは当然

若者の心の動機の移り変わりを表現している。第2曲の終わりの部分で噴出した過去の痛みがここで第1曲の思いの何倍にもなる。まるで火山の爆発のように噴出しているのである。この右手の8分音符の演奏ははっきりと刻むべきである。はっきりと刻んだことによって声部を邪魔し音楽を崩壊の方向に向かわせることはありえない。この8分音符の起伏を受け第26小節の第1の頂点に持って行くのである。ピアノパートの左手の多くの部分は歌のメロディーをなぞっているが若者の心のより強い揺れを表現するためにメロディーと交錯させている。作曲技法上の効果としてはかなりのテクニックである。歌声部について述べよう。第5小節目から一気に11度上がって行く旋律である。しかも表示は速くそして荒々しくとある。歌手は単純に歌いだすと声のバランスを崩し第3曲を最後まで歌い通すことが出来なくなる。感情とは別に声のテクニックがかなり高度に必要となる。歌い始めは声帯を前にとって薄く明るく歌いだす。そして第4音G音(ソ)位の位置から声帯を薄く引き上げH音(シ)の位置に来た時には頭声域のテクニックにもっていかなければならない。聴衆は一気にDis音(＃レ)から11度上のG音に駆け上がっていった感じを受けるが歌手の体の中では発声テクニックを一つずつ乗り越えていかなければ納得のいかない演奏になってしまう。この細部とも思われる行程を無視するとこのドラマティックの第3曲目は演奏不可能である。歌手の感情のまま演奏することが曲を表現する事ではないことは重々承知していると思うが怒鳴って低音部から一気に高音部に歌い上げる事のリスクはこの曲を最後まで演奏し終えることが出来ない事となるのである。ピアノパートの右手部分の8分音符の刻みは当然若者の心臓の強い動悸である。一般的に表現されている動悸の表現よりもかなり直接的に表現されている。第9～11小節目までのO weh! Das schneid't so tief(その短剣は奥深く刺さっていた。この痛み)の部分はOに掛かっているアクセントをはっきりと歌いwehに関しては内的に処理をするべきである。この類似箇所は後述するがその意味を演奏者は理解しなければならない。第15～17小節目まで又同じ音型箇所が表れている。ここではメロディー部分にZeit

lassen(急がないで)ピアノパートには etwas zurückhaltend(aber nicht zu sehr)(立ち止まって(しかし少しだけ))と記されている。音域も5度上がって若者の心理状態もかなり高揚している状態が見える。この音楽表示からも理解できることは若者の感情と気持ちのアンバランスがはっきりと表れてきていることがわかる。so tief! Es schneid't so weh und tief(短剣は深く痛みを伴って刺さっている。)第1節前半の頂点である。第18小節目から音楽は表面的には落ち着きを取り戻しているかのように感じる。ピアノパートは相変わらずの8分音符を刻んでいるが音楽は一見収まってきているように感じる。歌詞の内容はAch! was ist das für ein böser Gast! Nimmer halt er Ruh', nimmer halt Rast! Nicht bei Tag, nicht bei Nacht, wenn ich schlief! O weh!(なんて凶暴な客であろうか!かた時も休まずかた時も憩えず。昼も夜も、僕が眠るときもこの痛み。)と歌っている。この凶暴な客とはもちろん恋敵の事である。ここで3回目のO weh(この痛み)が歌われている。もちろん第2回目は歌詞が違うが音型も作曲技法上も同一である。この3回のO weh(2回目はso tief)はそれぞれに歌い方を変えなければならない。1回目は感情を表面に出しははっきりと直接的に、2回目は表示の指示通りに躊躇する感じで後ろ髪を引かれる如くに、この指示はドイツ歌曲のみに存在している楽語であり表現はかなり内的で外国人の我々にとってかなり高度の感情表現である。3回目はwehの位置にディクレッシェンドが掛かっているのがかなりの自分に対する内向的な揺れが表現されている。ピアノパートも重要性を帯びてきている。第18小節からも相変わらずの8分音符の連打が続いている。第18、19小節の頭の拍に強いアクセントがついている。メロディー部分はレスタティープ的に(語るように)演奏するのだがピアノパートの左手の動きがメロディーを増幅している。このアクセントはpで歌いだしているのがあくまで緊張感をもって表現する目安として演奏される。第18、21小節の強拍böser Gast(凶暴な客)に向かってクレッシェンドとディクレッシェンドが掛かっているがこの強拍部分はfである。音楽は一見平静さを取り戻しているようだが若者の心は全く相反し

ている。これは歌手とピアニストの音楽的表現に掛かり聞き過ぎられないような演奏に努めなければならない。第22小節目からは連符がアルペジオ的な広がりを見せている。ピアノパートの一部がメロディー線をなぞり気持ちの高揚に一役買っている。特に左手は3連音符から2連音符にと形を変え音楽の複雑さを広げている。この表現は若者の心の乱れを如実に掴み音楽の幅の広さ、情熱の揺れを図り第26小節目に気持ちの高まりを持っていくテクニックである。第27小節からは音符1つずつ強いアクセントがついている。歌手は激しく言葉一つ一つをはっきりと表現するのだがあくまでレガートの中で演奏したい。気持ちのみを最優先してしまうと音楽の破壊が起こり調和を崩してしまう。聴衆が耳を覆いたくなくては全て台無しになってしまう。演奏者が理解していなければ聴衆の気持ちは当然受け付けない。第30小節までの間にはメロディーもピアノパートも多くの演奏制限を受けている。強いアクセント、多くのディクレッシェンド、fから急激なpの繰り返しは演奏家にとっては歌詞の内容を忠実に表現しようとする最大の助けとなるのだが、テクニックと音楽的表現の力量不足の演奏家にとっては全く手の施しようがない難しい部分である。第30小節目からのピアノパートは第27小節のメロディー部分と同様の旋律をなぞっている。第31小節目にはaccel(急いで)の表示がある。このピアノの部分はかなりの速さにて若者の気持ちの衰退を感じるが実際にはそうではない。聴衆はあたかもそのような気持ちになろうちしている際に第33小節目の左手の音にたどり着く。(○印)この低音の炸裂する音を機会に若者の気持ちの高揚が再び表現されている。ここではsehr schnell(とても速く)と指示されている。第33~36小節までは一気に演奏する。オーケストラの伴奏であればさほどの苦労はないがピアノで音の薄さ、速さ、激しさを表現するにはかなりの問題が発生する。音は打音でなくよく響かせてしかも丁寧に。この4小節は曲頭と同じメロディーであるが全く再現部の形はとっていない。第2節に移行するドラマティックな経過部である。経過部といっても音楽表現は切迫し強い表現を要求している。第37小節に入るとNicht eilen(急がないで)との指示がある。第33~36

小節までは3拍子であるが第37, 38小節は2拍子に変わっている。Nicht eilenの表示はもちろんそのまま解釈することは危険であり、第41小節目のLangsamer(よりゆっくりと)に移行する手段として使われている。この激しい経過部の後の弛緩している音楽は当然若者の強く揺れている心の表現である。第40小節目のritenuto(音を保って)に向かっている。歌手は無気力にあきらめの気持ちで安心して、思わずO wehと歌い出さなくてはならない。この一節は曲の初めからの到着点である。第3曲目前半の区切りはここである。第41小節目からは若者の気持ちは再び落ち着くかのように見えるが実際にはそうではない。ピアノパートはLangsamerからmolt riten.(すごくゆっくりと)が掛かり第45小節のNoch Langsamer(もっとゆっくりと)にテンポは落ち着く。第2節の歌詞の内容は「僕が空を見上げると彼女の青い二つの瞳が見える。この痛み!黄色い野原を行くと、彼方から風に吹かれた彼女の金色の髪が見える。僕が夢から覚める時彼女の冷たい嘲笑の声を聞く。なんと苦しい事か僕は黒い柩に身を横たえ二度と目が覚めない様に望むのだ。」第45小節目のピアノパートはA音(ラ)の音の連打である。この音型によって聴衆は第2曲目の冒頭を回想するであろう。第2曲の若者が自然の中に身を委ねる幸せを(実際には曲終では若者の苦悩がよみがえってくるのだが)思い浮かべるであろう。しかしこの幻想は瞬間的なものである。第46, 53小節目に書いてある音楽表示flüsternd(息の混ざった声で喋るように)が第2曲の思いを瞬間的に払しょくさせる。歌詞の内容はWenn ich in den Himmel seh`seh`ich zwei blaue Augen Steh`n! O weh(僕が空を見上げると彼女の青い二つの瞳が見える。この痛み!)と歌っている。若者は全く過去の失恋からは立ち直っている様子がかげえない。第50小節の1回目のO weh!は強いアクセントがついているがあくまで強く誇張するのではなく胸の中の気持ちを誇張し聴衆に訴える事の意味である。ピアノパートも前述の第22小節目から使われた技法を4度高く使っているのである。左手の2連符の使い方においても前述したとおりである。第51小節のO weh に関してはもはや若者の意志ではなく吐息の中での自然発生的なつぶ

やきである。第53小節目からも第46小節目からの心理状態と同一である。Wenn ich im gelben Felde geh' seh' ich von Fern das blonde Haar im Winde weh'n! O weh (黄色い野原を行くと、彼方から風に吹かれた彼女の金色の髪が見える。)と歌っている。音楽はまたも第1節のように窮迫してきている。第56小節目のpoco accel. (少し急いで) から第60小節目のmolt accel. (もっとも急いで) にそして第62小節目のSehr schnell (すごく急いで) のテンポの取り方がかなり難しいところである。徐々に速くなっているという解釈はかなり危険である。ピアノパートの切迫した複雑なリズムの交錯した音型からも自然とテンポを上げていきたい気持ちが大切である。歌詞の内容からきているのであくまで物理的なテンポ解釈は不自然なギクシャクしている演奏につながっていく。感情の高揚と共にテンポ設定がなさなければならぬ。第64小節目にはEtwas weniger schnell (少し速さを除いて) との表示がある。第60小節目のSehr schnellに比べ物理的にテンポは落ちているのだが歌詞の内容としてsilbern Lachen, O weh! (彼女の冷たい嘲笑の声) であるのでここではテンポを落とす感覚ではなく言葉の強調に重きを置いている。第3曲中最も若者の心をえぐり傷つけている個所である。第65、66小節のO wehはもはや正気を失っている状況である。第60小節から第68小節までは歌曲では例外的にschlag singen (打つように激しく歌う) 個所である。ピアノパートをみてみよう。第60小節の左手の表現で若者の胸の鼓動が今までよりより一層激しく乱れていることがわかる。第62小節ではいったん音量は落ちている。これは夢と現実のはざまの出来事である。若者はかすか遠くに感じている。しかし左手の3

連音符が第64小節の右手の3連音符に引き継がれ第3曲目の頂点を極めている。第67小節の10連符、9連符は激しいグリッサンドのように弾きたい。若者の今までの感情は第68小節のich wollt' (僕はのぞんだ) のところまで一気に歌い続ける必要がある。その後のich läg' auf der schwarzen Bahr (僕は黒い柩に身を横たえられたら) の箇所では若者の気持ちは急激に萎え落ちてくる。第72小節からはSehr zurückhaltend (大いに後ろ髪を引かれて) が掛かり音楽は終止に向かう。Könnst' nimmer, nimmer die Augen aufmachen (二度と目を覚まさない) と歌っているが2回目のnimmer (2度とない) に強いアクセントがついているが決して強く歌わずに若者の自分に対する決意を歌っているのである。第73小節目の3連音符は若者のはっきりと自分に対する決別が出来ずに悶々として歌い終わっている表現法である。この最後のフレーズはマーラーのEinsturz (倒壊) としての代表的な個所である。ピアノパートは第68小節目の第1拍目はオーケストラであればシンバルが鳴り響くがこれもマーラーの「死の象徴」の異名を持つ。この小節からの左手のトレモロは葬式のドラの音であろう。若者自身で自分の苦しさを叩いているのである。後奏は曲頭のフレーズが変奏されて演奏されている。4回のaccelを使用し一気に後奏のフレーズの頂点にかけ上る。第75小節のフェルマータは印象的に音楽を止め若者の躊躇している気持を表面に出さずに表現している。第78小節目からは浮遊感のとんだ不規則な音列の中、放心状態の若者のあきらめと無気力さを表出し曲を閉じている。曲の始まりの激しさとは裏腹に若者の弱さを十二分に表現し演奏できることが肝要である。

(譜例 1)

Sehr leise und langsam

„Nun fängt auch mein Glück wohl  
Will my hap - pi - ness re -

pp

# No. 3.

**1 Schnell und wild**  
(mit starkem Pedalgebrauch)

Pianoforte

**5**

*f*

Ich-hab' ein glü - hend Mes - ser, ein Mes - ser in mei - ner  
There is a glow - ing dag - ger a dag - ger with - in my

**8**

Brust, o wehl! O wehl! Das schneid't so  
breast, Oh pain! Oh grief! I know no

**11**

tief in je - de Freud' und je - de Lust,  
rest. In ev - 'ry joy and ev - 'ry bliss,

14 *Zeit lassen*

so tief! So tief! Es schneid't so  
 so deep! so deep! I feel the

etwas zurückhaltend (aber nicht zu sehr)

17 *a tempo*

weh und tief! Ach, was ist das für ein bö - ser Gast!  
 dag - ger's kiss! Why must I car - ry this e - vil guest?

20

Ach, was ist das für ein bö - ser Gast! Nim - mer hält er Ruh',  
 Why must I car - ry this e - vil guest? Ne - ver is it still

23 *ff*

nim - mer hält er Rast! Nicht bei  
 ne - ver does it rest! Day and

27

Tag, nicht bei Nacht, wenn ich schlief! O weh! O  
 night stab-bing oft when I sleep! Oh pain! Oh

30

*accel.*

weh!  
 grief!

33

**Sehr schnell**

37

**Nicht eilen**

*ri-te-nu-to* *p*

O  
 Oh

41 **Langsamer** **Noch langsamer**

weh!  
grief!

*molto riten.*

*p* *pp* *pp immer mit Ped.*

46 *pp flüsternd*

Wenn ich in den Him - mel seh', seh' ich zwei blau - e  
Blue the sum - mer skies a - bove, Blue as the love - ly

*sempre pp und Ped.*

49 *pp*

Au - gen steh'n! O weh! O weh!  
eyes I love Oh pain! Oh grief!

*poco rit.*

52 *pp flüsternd*

Wenn ich im gel - ben Fel - de geh',  
When in the gol - den fields, 'tis there,

*ppp* *ppp*



55 *poco accel.*

seh' ich von Fern das blon - de Haar im Win - de weh'n! O  
blow - ing I see her gol - den hair her gol - den hair. Oh

L.H. *mf* *mf* *f*

58 *f* *molto accel.*

weh! O weh! Wenn ich aus dem  
pain! Oh grief! When I start from my

*p* *mf* *f*

61 *(♩ = ♪)*  
**Sehr schnell**

Traum auf-fahr' und hö - re klin - gen ihr  
dream at night I wake up hear - ing her

*pp trem.* *cresc.* *al*

64 **Etwas weniger schnell**

sil - bern La - chen, o weh! O weh!  
silv - 'ry laugh - ter, Oh pain! Oh grief!

*f ric.* *f* *sempre Ped.*

67 **Mit grösster Kraft**

Ich wollt' ich läg' auf der  
Would I were laid now up-

70 **Sehr zurückhaltend**

schwar - zen Bahr', könnt' nim-mer, nim - mer die Au-gen auf - ma - chen!  
- on my bier, my eye - lids nev - er to o - pen here - af - ter.

75 *mf* *p*

*ppp* *accel.* *accel.* *accel.* *accel.*

78 *a tempo*

*veloce* *pppp* *poco rit.*

## **The Mahler Song Cycles“Eines Fahrenden Gesellen”Vol.3 —Performance and Interpretation for the Singer and Pianist—**

Nonogaki, Fumishige\*

声楽の分野では演奏が全てである。その演奏の助けとして歌手とピアニストの為の演奏法の解釈、分析が必要であり重要となってくる。現在、声楽の分野ではそのような文献がまだ不十分である。特にその中でもドイツ歌曲の分野では世界で最も優れている詩人の作品に才能ある作曲家が曲をつけていることでも知られている。筆者自身ドイツ歌曲専門の歌手であるため、ドイツ語圏の最高の芸術作品であるドイツ歌曲の演奏法と解釈に注目している。

キーワード：グスタフ・マーラー, さすらう若人の歌, 歌曲集